

## 特集記事

### 第1部 (全2部)

# 神は祈りにどう答えるか

**「私は、すべての場所で、怒りや疑いなく、聖なる手を上げ、祈ることを願っています。」**

**1テモテ2:8**

私たちは、神が私たちの祈りに答えてくださるとどうして確信できるのでしょうか？祈りへの信仰を表明するだけでは不十分です。例えば、数多くの親が祈り、神に子供を戦場で守ってくださるよう願ったにもかかわらず、子供たちが戦死したり重傷を負ったという知らせを受け取ったケースがあります。また、祈りへの信仰を表明しても、一国が平和を祈っても、しばしば戦争の渦中に巻き込まれる理由も説明できません。

一方、子供たちの安全を祈った祈りが神に答えられたと証言する人々が何千人います。他の人々は、祈りで求めた特別な祝福を神が素晴らしい方法で与えてくださったと証言します。経験だけに基づけば、神が一部の祈りに答え、他の祈りに答えないよう

に見えるのは、（当然のこのように思えます）

しかし、これは聖書が神について教えていることと一致しません。聖書は「神は偏りを持たれない」と述べています（使徒行伝10:34）。したがって、神が一部の祈りに答えて他には答えない理由が必ずあるはずです。その理由を見つけることができれば、祈りが無視されたように思える人々の信仰を回復する手助けとなるでしょう。

祈りはキリスト教体験の非常に重要な段階です。また、多くの他の宗教の信者たちによっても広く実践されています。祈りたいという願望は、私たちが高次元の力への依存を認め、自分たちよりも外にあり、より賢い何らかの源からの助けが必要だと気づいた表現です。疑いなく、神は祈りを通じて彼と接触しようとするすべての人の真摯な願望を喜ばれます。なぜなら、少なくともこの点において、それは高次元の主権的な力への認識だからです。

祈りたいというほぼ普遍的な衝動は、最初の男アダムが神の形象に創造された事実によるものです。（創世記1:27）人間の罪と死への墮落により、その性格における神の形象は大きく曇り、多くの場合ほとんど消え去ってしまいました。しかし、その残滓は依然として存在し、その一つが祈りたいという衝

動です。祈らない人々が何百万人もいる一方で、祈るべきだと感じ、祈らないことへの罪悪感を抱く人々もいます。

神は、被造物における祈りの精神を喜ばれます。しかし、なぜ神は一部の祈りを聞き入れ、他の祈りは無視されるのでしょうか？イエスは、当時の多くの人々の祈りについて語った中で、この質問への答えを暗示しています。彼らは人に見られ、聞かれるために祈り、神が彼らの「多くの言葉」のために聞き入れると考えると、イエスは説明しました。(マタイ6:5-7)。これにより、祈りには適切な態度と不適切な態度、正しい方法と間違った方法があることが思い出されます。祈りに入る多くの人々は真剣かもしれませんが、その方法は不適切です。

聖書は、祈るべき適切なことと不適切なことがあることを示しています。使徒ヤコブは書きました：「あなたがたは求めるが、得ないのは、あなたがたが間違ったように求めるからです」(ヤコブ4:3)。神に恵みとして与えていただくべきものを明確に知ることは、極めて重要です。私たちの気まぐれが求めるものを神に求め、その祈りが聞き届けられることを期待することはできません。

## 祈りの目的

祈りには神聖な目的があります。このことを心に留めておくことは、なぜ一部の祈りが答えられないのかを理解するために極めて重要です。神は祈りを、この地上でのご自身の御業の管理方法を知るための手段として設計されたものではありません。神は私たちに、ご自身が何をすべきか教えてほしいと望んでおられるものではありません。神にはご自身の定められた計画と目的があります。私たちが神の祝福の豊かさを受けるためには、私たちの祈りがこれらと調和していることが不可欠です。ヤコブの言葉を用いれば、私たちが神に祈る際に、自分の願いを神に伝えるだけで、神のご意志が私たちの生涯に実現されることを求めない場合、私たちは「誤った祈り」をしているのです。

聖書では、さまざまな種類の祈りが示されています。その中でも最も重要なのは感謝の祈りです（詩篇92:1）。神は、被造物が彼を祝福の源として認め、そのために心と声を上げて感謝を捧げることを、間違いなく喜ばれます。

創造主の性格の栄光ある属性——知恵、正義、愛、力——を認める賛美の祈りもあります。神を栄光

化し、その性格への賛美を示すことは、私たちの祈りの多くの動機となるべきです。 - 詩篇29:1,2

神の慈悲を求める祈りも適切です。聖書は、すべてのキリスト教徒が の祈りを通じて、罪の赦しを神に求めるよう促しています。(1ヨハネ1:7-9)パウロはこれを「恵みの御座に大胆に近づくこと」と表現し、そこで慈悲を得て、あらゆる必要の時に助ける恵みを見つけることを述べています。 - ヘブル人への手紙4:16

次に、当然ながら、主から特定の祝福や恵みを請う祈りがあります。現在、私たちは特にこれらの祈りに焦点を当てています。一部の人は、自分や他者の健康を祈ります。一部の人は富を祈ります。一部の人は旅の安全を祈ります。数百万人が平和を祈ります。戦争で対立する国の市民が、それぞれの軍隊の勝利を祈ることはよくあります。私たちは、祈りによって神に近づくすべての人々が真剣であり、当然ながら、その時に最も重要だと感じることを神に求めることを前提とします。しかし、聖書は、これらの祈りが、発せられた要求通りに答えられるべきだと私たちに正当化するのでしょうか？

神は、戦場で戦う子供の安全を願う親の祈りを聞き届けるかもしれません。また、国家の平和を願う

祈りが聞き届けられることもあるかもしれませんが。そのような祈りが聞き届けられる場合、それは単に神の意志にかなっていたからです。神には固定された計画があり、その計画に従って人類に配慮しています。その計画は、人間の気まぐれや 々な願望を満たすために作られたものではありません。また、祈りの量によっても、神の計画は変更されません。

「祈りは物事を変える」と言われますが、それは神の計画を変えるものではありません。神は、私たちや諸国から、私たちや世界全体のためにより良い条件をもたらすためにどのような変更を加えるべきか学ぶために、私たちや諸国を見ているわけではありません。人々の祈りの雄弁さや説得力によって、意見や計画が揺らぐような神に、私たちはどれほど信頼を置けるでしょうか！

## 「あなたの御心が行われますように」

神の民は、祈りの中で、すべての経験において神の御心が成されることを、心と魂の最も深いところにおいて願うべきです。この点において、イエスの例は際立っています。ゲツセマネの園で、主が逮捕と死に直面した時、「苦悩と絶望が彼を襲い、彼は弟子たちに言った、『私の心は悲しみのために砕けそうである。...彼は少し進んで、顔を地面に伏せて

祈り、言った。『父よ、もし可能なら、この杯を私から取り去ってください。しかし、私の願いではなく、あなたの御心が行われますように。』」 - マタイ26:38,39

イエスが人類の贖い主であり救い主として、屈辱と死を耐え忍ぶことは、神の御心であった。この神聖な計画の重要な特徴は、旧約聖書の聖なる預言者たちによって予言されていた。イエスは、何よりも父の御心が成し遂げられることを望んでいました。それが自分にとって何を意味するかは関係ありませんでした。彼は、逮捕されようとした時、このことを改めて確認しました。ペテロが主を守るために剣を抜くと、イエスは彼に言いました。「剣を鞘に納めよ。父が私に与えたこの杯を、私は飲まないでいられるだろうか。」 - ヨハネ18:10,11

イエスに従う者は、彼と共に苦しみ、死ぬ特権を持っています。パウロは「キリストと共に十字架につけられる」と語り、また「あなたがたには、キリストのゆえに、彼を信じるだけでなく、彼のゆえに苦しみを受けることも与えられている」と書きました（ガラテヤ人への手紙2:20；ピリピ人への手紙1:29）。私たちはイエスの足跡に従うように召されています。したがって、神が私たちをすべての苦難から免れさせようとはされていないことを知ってい

ます。したがって、イエスのように、私たちの主な関心事は、主の御心が私たちの肉体のうちに成し遂げられることです。主の御心は、一時的に地上の祝福を享受することかもしれません。しかし、私たちの祈りの重荷は、これらではなく、人生のあらゆる経験において主の御心が成し遂げられることにあるべきです。

イエスは弟子たちに、彼の中に留まり、彼の言葉が彼らの中に留まる限り、祈りの中で望むものを何でも求めることができ、それが与えられると述べました（ヨハネ15:7）。これは、私たちが思いつくあらゆることを神に求める特権があるという保証のように思えるかもしれませんが、そうではありません。

この主の言明に付随する条件に注意してください：「あなたがたが私の中に留まり、私の言葉があなたがたの中に留まるなら」。キリストの中に留まるということは、彼を頭とするその体の成員となることです。（コロサイ人への手紙1:18）これは、彼の考えが私たちの考えとなり、彼の計画が私たちの計画となることを意味します。もし私たちの意志が、キリストを通して神に完全に委ねられているなら、私たちは自分の意志を持たなくなるため、祈りは私たちが望むものを求めるものではなく、私たちの

頭であるキリストの意志と調和したものである。このように主の意志と調和して祈るなら、私たちは恵まれた答えを得られることを確信できる。

これは、イエスが弟子たちに語った別の言葉と調和しています。その中で、彼は天の父が「聖霊を求め求める者たちに与えることを喜ばれる」と教えています。（ルカ11:13）。神の霊に満たされるということは、神の考えが私たちの思考を支配し、私たちの生活がそれらの考えに合わせられるということです。そうすれば、私たちは神に祝福を請うことは、彼が与えると約束したものを除いては一切なく、したがって私たちの祈りが答えられるかどうか疑問に思うことは決してありません。

## 「あなたの御国が来ますように」

ルカ11:1には、弟子たちが「主よ、私たちに祈りを教えてください」と求めた記録があります。これに対し、イエスは現在「主の祈り」として知られる祈りを与えました。この模範的な祈りでは、私たちが祈るべき内容の指針が与えられています。

この祈りの簡潔な概要における重要な部分は、神への適切なアプローチの方法です：「天にいます私たちの父よ、御名が聖とされますように」（第2節

）。聖書では、アダムは「神の息子」と呼ばれています。(ルカ**3:23,38**)。しかし、彼が罪を犯した時、彼は神の子としての地位を失い、神から離反し、死の判決を受けました。アダムの子孫である全人類もまた、神から分離しているため、彼を「天にいます私たちの父」と呼ぶことはできません。これは、罪を悔い改め、イエスを個人的な救い主として受け入れ、神に生涯を捧げ、その御心を行うために完全に献身した者だけに与えられる特権です。このような者は、神の御子の霊を受けたとされ、 **thus** 神の子となったのです。 - ローマ人への手紙**8:15** ; ガラテヤ人への手紙**4:6**

神の子供として、彼らは何よりもまず父の名を尊ぶことを望むでしょう。 **thus, their attitude will always be, "Hallowed be thy name."**天の父の名を正しく尊ぶことは、私たちが 祈りによって彼に近づく際、イエスが聖書で示した方法でそうすることを意味します。彼は、私たちの祈りは彼の名前によって捧げられるべきだと説明しました。 - ヨハネ **15:16**

これには理由があります。私たちは、正当に裁かれた種族の一員として、イエスという私たちの弁護者を通じなければ、神の御座に立つ資格はありません。(1ヨハネ**2:1**) 彼の御名において、そして彼の流

された血の功績によって、私たちは「大胆に」恵みの御座に近づき、赦しと、愛する天の父が約束されたすべての祝福を求める特権を与えられています。

(ヘブル4:16) もし私たちが彼の御名を正しく聖別するなら、イエスを通さずに彼に近づくことは決してありません。

主の祈りの例に倣うとき、私たちの願いは、自分自身の利益のためというより、他者の祝福のためになるでしょう。このことは、冒頭の祈りにおいて示されています：「御国が来ますように。天におけるように、地においても御心が行われますように。」

(マタイ6:10 ; ルカ11:2)。この祈りの答えは、人々が世紀にわたって祈り続けてきた多くの祈りの答えとなるでしょう。その答えは、すべての人の正当な願望を満たすものです。それは、主の王国の義の律法に従うすべての人々に、平和、健康、そして永遠の命をもたらすでしょう。

人類が渴望し、数百万人が祈る祝福は、すべて神によって予見され、彼がすべての預言者を通じて約束した王国を通じて提供されるものです。これらの約束には、死んだ者たちの復活を含む、人々への祝福の詳細が数多く含まれています。神は人々の苦しみを見過ごしたわけでも、彼らの助けを求める叫びを無視したわけでもありません。彼の祈りへの答え

は、適切な時が来た時、彼らがかつて夢にも思わなかったものを遥かに超えるものとなるでしょう。

例えば、戦場で戦う子供の安全を祈る親の場合を考えてみましょう。親は子供を愛しており、家族の家に戻ってくることに以上大切なものはありません。しかし、子供が戻ってこなければ、親の最初の考えは「神は気にかけていない」「憐れみがない」かもしれません。もし親が、祈った時よりもはるかに満足のいく帰還を神が用意していることを信じていることができたなら、親の気持ちはどのように変わるでしょうか！

親は、子供が死の眠りにつくことで免れる苦難や苦痛について、どれほど知らないものでしょうか。畢竟、親も子供も滅びゆく種族の一員であり、戦場で死ぬことと、老衰で死ぬことの違いは、永遠の広がりとは比べれば、一瞬の差に過ぎません。この立場から、私たちは祈りの対象と、神が私たちの願いに答える方法を見なければならぬのです。

私たちが神に祈るという事実そのものが、彼の知恵と力と愛が私たちのものを遥かに超えているという信仰の表れです。しかし私たちはこのことを忘れ、神が私たちの祈りを聞き入れていないと感じます。なぜなら、神は私たちの限られた能力で望むように答えていないからです。私たちの命の期間は非常

に短く、私たちは、この短い人生の中で成熟するかどうかで成果を判断します。しかし、神の業をこの立場から判断すべきではありません。

聖書は神を「永遠から永遠まで」と述べています（詩篇41:13 ; 90:2）。神は、私たちの短い生涯の間に、ご自身の計画の特定の段階を完了する必要はありません。たとえそれが私たちの個人的な願いに関わることでです。もし今日、神の意志にかなう特別な祝福を神に祈り、その答えが明日や明後日になっても来なかったとしても、私たちは神への信仰を失うことはありません。答えが来た時に喜びます。神には「明日」もあります。彼の日は時間ではなく、時代で測られます。彼の「明日」の時代、すなわちキリストの王国における千年の期間に、世界が正当に渴望し、数百万人が神に願い求めたすべての祝福が、人類に豊かに注がれるでしょう。このことを認識して、人々は次のように応えるでしょう：「これが私たちの神です。私たちは彼を待ち望んでいました.....私たちは彼の救いに喜び、喜び踊るでしょう。」 - イザヤ25:9

## 「天におけるように」

私たちは既に、神は御意志に反する祈りには答えないことを学んでいます。主の祈りにおいて、この

原則は明確に示されています。神に地上の民への祝福を請う際、彼らは単に自分たちが渴望する「良いもの」を求めず、神の御意志に調和したものを求めています：「天においてなるごとく、地においても御旨が成りますように。」 - マタイ6:10

神は、御心と調和した事柄について、私たちにどれほど広い自由を与えられたことでしょうか。神の御心は天で成されています。そして、神は、その御心が地でも同じ程度に成されることを目的としています。もちろん、私たちは、神の御心が天でどのように成されているか全てを知りません。しかし、現在地上に存在する悪が、私たちが天と呼ぶ霊の世界の住人の生活を悩ませていることはないことは、合理的に確信できます。

戦争は、神の意志と調和しない大いなる悪の一つです。したがって、私たちは平和を祈るべきです。

(詩篇122:6 ; ナホム1:15)。実際、天において神の意志が成し遂げられるように祈ることは、平和を祈ることなしにはできません。私たちの平和の祈りは、神の平和を確立する計画と調和していなければなりません。それが彼の王国計画です。(エゼキエル37:21-28)。神は王国を設立し、政府を確立すると約束されました。その政府の王はイエスです。「その政府は彼の肩に負われる」とイザヤは書き、「

彼の政府と平和の増し加わりに終わりはない」とあります。 - イザヤ9:6,7

疑いなく、神は人類が戦争を廃止しようとする願いに同情の眼差しを向けています。国際的な緊張が高まり、戦争が不可避に思える時、両側の信心深い人々は平和を祈ることを迫られます。戦争を引き起こす可能性のある対立は解決されるかもしれないし、されないかもしれない。しかし、私たちは最終的に普遍的で永続的な平和が訪れることを知っている。それは諸国が平和の実現可能な公式を発見するからではなく、「平和の君」が地球の支配権を掌握するからである。(イザヤ9:6) その時、「あなたの王国が来ますように」という祈りが答えられるだろう。

キリストの支配は、聖書において「主の山」として象徴されています。ミカ4:1-4には、次のように記されています。「その日、人々は言うだろう。『主の山へ上ろう。ヤコブの神の家に。彼は 私たちにその道を教え、私たちはその道に従う。なぜなら、律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。』彼は多くの民を裁き、遠くの強い国々を戒める。彼らは剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す。国は国に対して剣を挙げず、戦いを学ぶこともない。彼らはそれぞれ、自分のぶどうの木の下といち

じくの木の下に座り、誰も彼らを恐れない。なぜなら、万軍の主がそう言われたからである。」

何という素晴らしい軍縮の計画でしょう！これは神の計画です。平和を祈り、諸国が軍縮することを祈る時、私たちは神が聞き、その御心に従って祈りに答えてくださるという確信を持って祈りましょう。その御心は、彼の王国を通して実現されるからです。「彼は戦争を止ませる」とダビデは預言しました。 - 詩篇46:9

この重要なテーマに関する第2回は、来月の『ザ・ドーン』誌に掲載されます。その中で、主の祈りの他の部分の詳細を考察します。また、聖書によると、すべての民を祝福し、世紀にわたって唱えられてきた数百万の心の祈りに答える神の地上における王国に関するさらなる側面についても探求します。